

# 島根大学 ラフカディオ・ハーン研究会 ニューズレター 第7号

編集: 島根大学ラフカディオ・ハーン  
研究会事務局  
所在地: 〒690-8504  
島根県松江市西川津町 1060  
島根大学法文学部 渡部研究室  
発行: 2017年12月9日

## 島根大学ラフカディオ・ハーン 研究会に入会して

副会長  
渡部 知美

「草雲雀」という作品を読んで、虫にも魂があるという感覚は、今の日本人はほとんど持っていないのではないかと思います。九月のラフカディオ・ハーン研究会の読書会で心臓も脚も同じくらい重要だという解釈をされた会員の方がおられました。重要度で優劣を付けない考え方というのは、もしかしたらハーンの捉え方に通じるのではないかと思います。

先日、日系アメリカ文学の作品で論文を書いたところです。日本人のアメリカへの移民が合法化されたのが1884年で、ハーン来日の6年前です。黄禍論等による排日感情、人種差別で、故郷に錦を飾る夢をもってアメリカへ渡った日系一世はずいぶん苦しんだことがわかりました。一方、ハーンを明治時代の日本人、特に学生は、英語を学びたい、西洋の知識を吸収したいという真摯な気持ちで受け入れたのだと思います。そこには、日本は西洋に遅れているから教わりたいという謙虚な気持ちが働いていたと思います。「きよなら」を読むと、一生懸命勉強する学生の栄養状態を心配するハーンの暖かなまなざしが感じられます。日本がまだ貧しく、知的にも文化的にも道徳的にも日本人が劣っていると見なされていた時代に同じ人間として見る視線

を向けていたのではないかと思います。

高校時代の担任の先生がハーンのことを話してくれて、ずっと心に気になるところがありました。上海のイギリス人租界で育たれ、英語は流暢に話されるし、マナーもスマートな先生でした。戦前の、まだ日本と外国との距離感が遠い時代に海外で暮らされたということで、先生はハーンに関心をもたれていたのではないかと思います。でも、その先生の名前をこの8月にハーンの研究書に見た時はとても驚きました。私も人の心に残るような、ハーンの紹介ができたらいいなあとと思います。横山さんがこまめにテキストのコピーを持ってきてくださったことにも感謝しています。常松先生と再び読書会ができるのも学生時代に戻ったようで嬉しいです。吉川先生、嵐先生、高橋先生の鋭い指摘も刺激的で学生に戻ったような気持ちになれます。

## 微笑み、「日本人の微笑み」？

山根よし子

私が「島根大学ラフカディオ・ハーン研究会」に参加したきっかけは、大学時代の恩師である常松先生から研究会の案内をいただいたことに始まります。先生からのご案内であったこともあり参加してみようと思ったしました。当時英語教師をしていた私は生徒に教えるだけでなく、自分自身も学びたいという思いがありました。学び続ける楽しさを生徒

に伝えたいという思いもありました。何よりも先生にまたご教示いただける喜びを感じていました。しかしラフカディオ・ハーンについては、生徒にスピーチコンテストの指導をしたことと怪談を数編読んだことがある程度の初心者で、何も知らないに等しいところから始まりました。

実際に研究会が始まると、ハーンの講義録やさまざまな作品を読むことになり、とりわけ講義録では知らない単語や難解な文に出会って辞書を引きまくることもありました。こんなことは大学院生時代以来で自分の英語力のなさに挫けそうになりました。担当になった箇所について参加者の皆さんの前で何とか日本語訳を試みるのですが、まことにお粗末な訳で字面では訳せても内容理解にはいたっていませんでした。恩師からは、英語教師であるが故文法にとらわれすぎてしまい内容理解にまで及ばない私の欠点を幾度となく指摘され、ここで求められているのは内容理解の方だと自分の努力不足を痛感しました。しかし、そんな時には参加者の皆さんからご指摘をいただいたり、ハーンの考え方や生き方について教えていただいてああそういうことなのかと理解を深めることができました。読み進める内にハーンの読書量と文学に対する造詣の深さを痛感させられました。また怪談を初めとして幽霊が出てくる話には静かな恐ろしさが感じられ、「首をもぎ取る」などとそこまで描くのかと想像するのも恐ろしくなります。死後もなお続く女の情念を感じさせる話には、女性の思いの深さと怨念めいたものも感じます。

「日本人の微笑み」を読んだときには自分たち日本人のことを外側から教えられた気がしましたが、私にはまさに思い当たる出来事がありました。それは四年前になりますが、管理職試験に合格し校長として赴任地を告げられる時でした。呼び出しを受けて突然に言い渡されるのですが、私には免許もなければ経験もない校種名が告げられ一瞬にして大きな不安に襲われました。私にできるのだろうか？しかしその時の私はにっこり微笑んで一言「ありがとうございます」と答えていました。その後の写真撮影でも微笑んでいたの

でしょうか、写真屋さんからは「いい笑顔ですね」と言われる始末。その写真を新聞で見た知り合いからは不安でいっぱいのお祝いのメッセージ。不安な気持ちを話すことさえできませんでした。なぜ私は微笑んでいたのだろう？愛想笑い？愛想笑いなどして私はいやな人間？その時私ははっとしました。私が微笑んでいたのは、「日本人の微笑み」の中にあつた「好意を持ってくれる人々に、心配をかけたり、苦しみをもたらさない」ためだったのではないかと。自分の不安な気持ちは微笑むことによって隠されたのです。(余談ですが、実際に勤務してみると先生方の熱意と愛情によって私の不安など杞憂に終わりました。)自分の行動をそのように理解することで私は落ち着きを取り戻すことができ、「日本人の微笑み」を読み返してみました。そこにはハーンの鋭い社会的文化的分析がなされていて、全てというわけではありませんでしたが自分の中の日本的な部分に気づかされました。ここでもまたハーンの鋭い洞察力、分析力と説得力に驚かされました。

全くの初心者であつた私も月に一回の研究会(読書会)を楽しみにするようになりました。自分の英語力の向上などというよりハーンの世界を理解したいと思うようになりました。会員の皆さんも年齢・職業、ハーンとの関わり方もさまざまですが、いろいろなお話を聞かせていただきたくさんのことを学ばせてもらっています。今関心があることはハーンの色覚の豊かさです。そこから何かアプローチできることはないかと密かに思っています。

## 【 読書会の記録 】

事務局長 横山 純子

### 第94回例会

2017年3月18日(土)14:00~16:00

島根大学学生市民交流ハウス 11

名参加  
“The Reconciliation”, “Inga-banashi”  
7.11-11.22, 205.1-209.2

#### 第 95 回例会

2017年4月15日(土) 14:00~16:00  
島根大学附属図書館 2階ラーニングコモンズ 2 7名参加  
“Inga-banashi”, “The Story of O-Tei”  
209.3-212.23, 29.1-35.5

#### 第 96 回例会

2017年5月20日(土) 14:00~16:00  
島根大学附属図書館 2階ラーニングコモンズ 2 10名参加  
“A Dead Secret” 103.1-107.25 & ハーンの怪談をめぐって皆で話

#### 第 97 回例会

2017年6月10日(土) 14:00~16:00  
島根大学附属図書館 2階ラーニングコモンズ 2 12名参加  
“Steeple Climbers” 196.1-200.24

#### 第 98 回例会

2017年7月8日(土) 14:00~16:00  
島根大学附属図書館 2階ラーニングコモンズ 2 10名参加  
“Steeple Climbers” 200.25-241.15

#### 第 99 回例会

2017年8月19日(土) 14:00~16:00  
学生市民交流ハウス 11名参加  
“Kusa-Hibari” 235.1-241.15

#### 第 100 回例会

2017年9月9日(土) 14:00~16:00  
島根大学学生市民交流ハウス 10名参加  
“Yuko: a Reminiscence” 331.1-337.13

#### 第 101 回例会

2017年10月14日(土) 14:00~15:00:  
総会 15:00~16:00: 読書会  
島根大学附属図書館 2階ラーニングコモンズ 2 8名参加

“Yuko: a Reminiscence” & “The Glamour of New Orleans” 337.16--341.12, 1.1-2.17

#### 第 102 回例会

2017年11月11日(土) 14:00~16:00 総会 & 読書会  
島根大学附属図書館 2階ラーニングコモンズ 2 11名参加  
“The Glamour of New Orleans” 2.18-5.6

読書会の折、ハーンの“familiar faces”という表現に関して、吉川先生より Charles Lamb の詩に“*The Old Familiar Faces*”があり、7連より成るこの詩の連の文末にこの語句が繰り返し使われているとの興味深い指摘があった。このように読書会は様々な情報を交換でき、刺激を得られる楽しい場である。

ハーンは読書について“*The test of a great book is whether we want to read it only once or more than once. And really great book we want to read the second time even more than we wanted to read it the first time; and every additional time that we read it we find new meanings and new beauties in it*”と述べているが、良書かどうかという判断が一度しか読みたくないか、一度より多く読みたいか否かに依るとするのは、確かに同感である。そしてハーンの述べているように、読む度に新しい意味と新しい美が発見されるということは味わい深いことである。読書会で何度も読みたい作品を一人ではなく、皆で読み進めることで、さらに新しい作品の世界を旅することができると思えるものである。

#### 🌸今後の予定

2018年1月20日(土) 14:00~16:00  
2018年2月10日(土) 14:00~16:00 は場所は島根大学学生市民交流ハウスです。作品は“*My First Day in the Orient*”を読む予定です。

皆様の奮っての参加をお待ちしております。

## 島根大学ラフカディオ・ハーン研究会の歩み

- 2006年11月30日 島根大学附属図書館小泉八雲出版編集委員会・島根大学ラフカディオ・ハーン研究会共編『教育者ラフカディオ・ハーンの世界：小泉八雲の西田千太郎宛書簡を中心に』（出雲：ワン・ライン）の発刊。この本の発行を機に島根大学ラフカディオ・ハーン研究会が発足。
- 2007年11月18日 午後2時から島根大学附属図書館八雲文庫室で、第一回読書会が行われた。ラフカディオ・ハーンの講義録“The Value of the Supernatural in Fiction”を読んだ。
- 2008年2月8日 午後2時より第一回研究発表会を島根大学総合理工学部2号館301号室で行い、ハーンを卒論に書いた学生会員2名が発表した。
- 2008年3月25日 高瀬彰典著『小泉八雲論考：ラフカディオ・ハーンと日本』発行
- 2008年3月14日 午後2時より第二回研究発表会を大学会館2階の集会室で行う。会員の中の1名が修士論文発表、他の1名が博士論文の中間発表を行った。
- 2009年12月25日 高瀬彰典著『小泉八雲の世界：ハーン文学と日本女性』発行
- 2011年3月25日 高瀬彰典著『小泉八雲の日本研究：ハーン文学と神仏の世界』発行
- 2015年9月12日 午後1時より法文学部

207 多目的室で行われた第5回岡本アメリカ・イギリス文学研究会&関西マーク・トウェイン・サークル合同研究会に参加。

- 2015年10月3日 長岡真吾先生「ラフカディオ・ハーンの世界—大英帝国統治下の19世紀イオニア諸島を中心に—」島根大学ラフカディオ・ハーン研究会10周年記念として（主催：島根大学ラフカディオ・ハーン研究会/島根大学附属図書館）島根大学教養講義棟1号館102室

- 2016年3月12日 国際交流員 Brittany Partin 氏出前講座「ラフカディオ・ハーンはアメリカでどう評価されたか」松江市国際交流会館第2・3研修室
- 2016年6月18日 池橋達雄先生の講演「小泉八雲の宗教観」& 荘原の街歩き 荘原コミュニティセンター

これからも島根大学ラフカディオ・ハーン研究会は島根大学で活動してまいります。何卒今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2014年4月12日より半年ごとに発刊しているこのニューズレターはバックナンバーを島根大学しまね地域資料リポジトリ (<http://coc.lib.shimane-u.ac.jp/ja>)よりインターネット公開しています。

---

編集後記：渡部先生にご入会いただき大変うれしく思っております。いろいろと教えていただきますようよろしくお願いいたします。（高橋栄）

---